

Osaka Mozart Ensemble

81. Konzert

大阪モーツァルトアンサンブル
第 81 回定期演奏会
レクチャーコンサート
「ウィーン古典派と外部の音」

講 師

伊東 信宏

ハーディ・ガーディ

吉川 智大

講師 (ハーディ・ガーディ)

木村 遥

ポジティブ・オルガン

佐川 淳

W. A. モーツァルト : 歌劇「後宮からの誘拐」序曲 八長調 KV 384

W. A. モーツァルト : 13 のドイツ舞曲 KV 600, 602, 605

J. ハイドン : リラ協奏曲 第 5 番 ト長調 Hob. VIIh: 3

J. ハイドン : 交響曲 第 100 番 ト長調「軍隊」Hob. I: 100

2026 年 11 月 1 日 (日) 18 時開演 (17 時 30 分開場)

豊中市立文化芸術センター中ホール アクア文化ホール

阪急宝塚線「曽根」駅より東へ約 300 メートル (徒歩約 5 分)

入場料 1,800 円 (全席自由席)

主催 : 大阪モーツァルトアンサンブル info@mozartensemble.jp

※未就学児の入場はご遠慮ください



チケットはこちらから
ご予約ください



伊東 信宏 Nobuhiro Ito 講師

1960 年京都市生まれ。大阪大学文学部、同大学院修了。在学中に大阪モーツァルトアンサンブル設立に参画。1992 年、ハンガリーに留学し、リスト音楽大学、ハンガリー科学アカデミー音楽学研究所バルトーク・アルヒーブなどで研究を行う。1993 年大阪教育大学助教授。2004 年より大阪大学大学院文学研究科助教授。2010 年同教授（音楽学）。博士（文学）。著書に『バルトーク』（中公新書、1997 年、吉田秀和賞）、『ハイドンのエステルハーゼ・ソナタを読む』（春秋社、2003 年）、『中東欧音楽の回路：ロマ・クレズマー・20 世紀の前衛』（岩波書店、2009 年、サントリー学芸賞）、『東欧音楽綺譚』（音楽之友社、2018 年）、『東欧音楽夜話』（音楽之友社、2021 年）など。編著に『ピアノはいつピアノになったか？』（大阪大学出版会、2007 年）、訳書に『バルトーク音楽論選』（太田峰夫と共訳、ちくま学芸文庫、2018 年）、『月下の犯罪』（講談社選書メチエ、2019 年）など。2026 年 4 月より大阪大学中之島芸術センター特任教授。



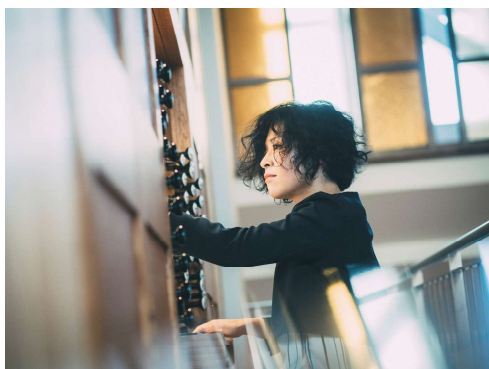
木村 遥 Haruka Kimura 講師（ハーディ・ガーディ）

博士（芸術学）。日本学術振興会特別研究員 DC、関西学院大学特別任用助教を経て、2025 年より日本学術振興会特別研究員 PD（成城大学）。関西学院大学・立命館大学ほか非常勤講師。専門は音楽学および楽器学で、とくに 17 世紀から 18 世紀にかけてのハーディ・ガーディ（ヴィエル）を中心に、田園趣味、舞曲、演奏習慣、演奏会文化とのかかわりから、近世ヨーロッパにおける楽器の演奏実態と受容を研究している。主要論文に「18 世紀フランスにおける女性のヴィエル演奏——楽器改良と運指法確立の観点から」『美学』72 巻 1 号（2021 年）、「コンセー・スピリチュエルにおけるヴィエルの使用——ノエルを奏でる牧歌的な楽器として」『音楽学』71 巻 1 号（2025 年）などがある。近年は、18 世紀フランスにおける楽器奏者の地位、宮廷舞曲とのかかわりなどをテーマに論文発表・学会発表を行っている。ハーディ・ガーディにかなする単著を音楽之友社より来春刊行予定。日本音楽学会、美学会、日本 18 世紀学会ほか会員。



吉川 智大 Tomohiro Yoshihaga ハーディ・ガーディ

大阪大学外国語学部スペイン語学科卒業。翻訳業の傍ら、ガリシア州ビーゴ市立美術工芸学校（Escola Municipal de Artes e Oficios de Vigo）の伝統楽器製作学科にて Xaime Rivas 氏の下、ハーディ・ガーディ製作を学び、2019 年にディプロマを取得。同時にビーゴ市立伝統音楽院（ETRAD）にて、Anxo Pintos 氏にハーディ・ガーディ、Xosé Liz 氏にブズーキの演奏を師事。帰国後は、コンサートや録音での演奏の他、現地でバルフォークの踊りの伴奏を担当した経験から、Sally Lunn 氏と踊りとセッションの会 Baléti Kyoto を共催。楽器製作においてはモダンスタイルのハーディ・ガーディの製作に取り組む他、ルーツ音楽や地域文化への関心から徐々に時代を遡り、中世スペインの音楽にも傾倒。現在はシンフォニアなどの古楽器製作にも取り組んでいる。2026 年、ミケランジェロ財団より弦楽器製作における専門知識と熟達を認められ、Homo Faber Guide に掲載予定。



佐川 淳 Jun Sagawa ポジティブ・オルガン

京都市生まれ。オルガンを津田能人氏に師事。大阪教育大学卒業後、ケルン音楽大学オルガン科で M.ヒュアホルツ氏に師事。ディプロマを取得し、修士課程に進む。2009 年より同志社中学校・高等学校音楽科教諭。同校グレイス・チャペルに完成したオルガン設置計画に全面的に携わり、現在は学校主催チャペルコンサートシリーズの企画運営に尽力する。同志社大学神学部嘱託講師。近年ではケルンの聖ペーター教会で開催された国際オルガン音楽フェスティバル(2019)、神奈川県民ホール(2020)、東京芸術劇場(2021)、宝塚ベガホール(2024)のコンサートシリーズでソロ演奏をするほか、ドイツ人アーティスト、レア・レッツェル氏との共同企画によるプロジェクト『KAMENOZOKI』で、日独合同の創作・演奏・演出チームの一員としてケルン及び京都で公演を行う(2022)。声楽アンサンブル vocal plus の主宰(2021-)、音楽教育研究会 Music and Beyond 代表(2025-)、日本オルガニスト協会正会員。
www.junsagawa.com

大阪モーツァルトアンサンブル Osaka Mozart Ensemble

1984 年、大阪大学大学院生を中心に発足。以後、京阪神の各大学オーケストラ OB を結集し、年間 4〜5 回の演奏活動を続けている。指揮者を置かず、自発的なアンサンブルの実現を目指す。演奏会では主にモーツァルトの作品を取り上げ、最新の研究成果に基づいて編纂された原典版を使用し、当時の一般的な編成で演奏している。1986 年 6 月に行った特別演奏会では、ヴィーン・フィルのアルフレート・プリントツ氏、アダルト・スコッチ氏等と共演し、好評を博した。1986 年から 1990 年にスベトラ・プロティッチ氏と 4 回共演。1988 年 5 月には、小山亮氏と新モーツァルト全集版によるホルン協奏曲全曲をレコーディングした。1989 年から 1994 年、関西モーツァルト協会例会に 7 回出演。1991 年 12 月 5 日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂におけるモーツァルト没後 200 年記念追悼ミサでレクイエムを演奏した。1995 年にはザルツブルク大聖堂でミサに出演、モーツァルトテウム大ホール、ヴィーン・ミナリーテン教会で演奏会を行った。1996 年から 2000 年にかけてモーツァルト劇場例会に 5 回出演。2004 年、指揮者なしでのモーツァルトの交響曲全曲演奏を 20 年かけて完結した。2020 年 1 月、セシオン杉並においてモーツァルト劇場主催「コシ・ファン・トゥッテ（高橋英郎日本語訳詞による）」に出演、好評を博した。

